（個 人）　　（報告：今　田）

山（山域・ルート）**森吉山　一ノ越ルート**

【日 時】23 年 10 月 11 日（火）～　10 月 12 日（水）　（1 泊　2 日）

【メンバー】

今　田

（計１名）

【行動記録】

13：20 こめつが山荘～14：20 勘助道分岐～15：00 一ノ越～15：45 森吉避難小屋着　　12 日 5：30 森吉避難小屋発～6：30 稚児平～7：00 山頂　9：30 石森分岐～10：45 ブナ帯登山口　12：00 阿仁ゴンドラレストハウス

上り　　4 時間　下り　5 時間

【装備・食料等】

ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、シュラフ、バーナー、燃料 0.3L マット、コッヘル、ポリタンク、着替え、熊よけ鈴、携帯電話

【感想】

森吉山の名前を知ったのは、9 月の八幡平へのバスの中だった。「森吉山登山口」停留所のアナウンスからだった。地形図を購入し調べてみると、バスの登山口から山頂までは非常に遠いことがわかった。しかし一ノ越から見えるであろう緩やかな等高線は、優しい姿を見せるのだろうと想像しているうち無性に森吉山に登ってみたくなり計画を立てた。

角館駅から秋田内陸縦貫鉄道に乗車した、この列車 2 両編成のディーゼル列車で田園風景から渓谷と、静かなローカル線の旅を楽しめた。

阿仁前田駅にて乗合タクシーに乗車し、こめつが山荘へ。

登山道を歩いているつもりが実はスキー場跡を歩いておりリフト頂上らしき地点で道が無くなり少々慌てた、地図にて確認するとスキー場の左側になっていた。

一ノ越からの眺めは想像していた通りであった、くまざさの中にオオシラビソが所々に生えており、大きなゴルフ場にも見える。ガンバ森方面は赤や黄色に紅葉しており、明日の山頂からの眺めが楽しみになった。
予定より早く森吉避難小屋に到着、森吉神社に参拝し登山の安全を祈願した。
クマザサのざわめく音で目を覚まし、ガスの中を山頂に向けて出発、日本海側から雲が次々と流れてゆく。山頂に到着ししばらく雲が晴れるのを待つが、風が強いため山人平に行くことも断念し下山することにした。
石森分岐まで下山するとゴンドラにて登ってきた登山者にたくさん出会った。
ブナの森の中を歩いていると、時折日差しがブナの葉を黄金色に変える、きらきらと輝いてとても美しかった。
キャンプ場を過ぎ車道を歩いていると、雪捨ての道に間違えて入ってしまったらしく、ゴンドラのケーブル下で道が終わっていた、藪の中を 30m ほど降りると車道に出ることが出来て事なきを得た。
乗合タクシーにて阿仁合駅へ、次の汽車まで時間があるので阿仁川まで歩くと
　老人が芝刈りをしていた、「水がきれいですね」と話しかけると森吉山周辺のことをいろいろと話してくれた。
一番印象に残ったのは「私らは、薪があるし、いざとなれば沢の水を飲めるし電気が止まっても何とか生きて行けるよ」
その通りなのだろう、自然の恵みの中で静かに暮らして行ける事は幸せなことだと思う。

森吉山、やさしく静かな山、それは冬を迎えると人を寄せ付けない厳しい姿にかわるのだろう。桃洞渓谷などの数々の沢から阿仁川へとそそぎ、人々の暮らしの中心となっているようでもあった。
今回の山行では 2 度の道迷いがあった、大事には至らなかったが分岐ではもっとよく確認しなければならないと思った。